



チベット通信

༄༅། ཉི་འོང་སྐུ་ཚབ་དོན་གཙོད་ཁང་གི་གསར་འཕྲིན།

2022年 夏号 SUMMER ISSUE



ダライ・ラマ法王日本代表部事務所（チベットハウス・ジャパン）

JAPANESE TIBETAN BULLETIN

JAPANESE TIBETAN BULLETIN

2022年 チベット通信 夏号 SUMMER ISSUE

Contents

日本・国際チベットニュース

- 情報・国際関係省大臣、ウクライナとの心からの連帯を表明 01
- 「昨日のチベット、今日のウクライナ、そして明日は！」アリヤ代表 02
- アリヤ代表、「六・四天安門事件33周年抗議集会」に登壇 05
- 米国務省、チベットのパンチェン・ラマ11世の「即時釈放」を中国に要請 08

チベット・ニュース

- チベットの首都ラサで焼身抗議が報じられたツェワン・ノルブ氏が死去 09
- チベット人作家の逮捕、拘禁及び強制失踪について国連専門家 11
- パンチェン・ラマと家族の釈放を求める新たな呼びかけ 14

ダライラマ法王ご法話

- 私たちの未来のための対話」参加者との会見 16
- ダライ・ラマ法王のメッセージ：2022年のアースデイに寄せて 21

イベント・お知らせ

- ダライ・ラマ法王 誕生祝賀会延期のお知らせ 23
- ゴールデンウィークに「チベット・フェスティバル2022」を開催 24
- チベット支援とご寄付について 26
- 当事務所の新しいスタッフの紹介 27
- チベットハウス主催『チベット語土曜講座』 28
- チベットハウス会員制度・会員募集のご案内 29

チベット通信 2022年夏号

2022年6月30日発行

発行人：ダライ・ラマ法王日本代表部事務（チベットハウス・ジャパン）

〒160-0031 東京都新宿区西落合3-26-1

電話：03-5988-3576

代表：アリヤ・ツェワン・ギャルポ（博士）

事務局長：タシ・ヤンゾム 経理担当：ツェラ

秘書課／Office Assistant：長谷川直子／ボランティア・スタッフ：鈴木サチ

情報・国際関係省（DIIR）大臣、 侵略を非難し、ウクライナとの心からの連帯を表明

[2022年3月4日 インド、ダラムサラ・スタッフレポーター]

中央チベット政権（CTA）情報・国際関係省（DIIR）のノルジン・ドルマ大臣は、ウクライナのチベット支援団体宛てに書簡を送り、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領による、破壊的な侵略に苦しむ、ウクライナの政府と人々を支援することを表明した。書簡の内容は以下の通り。

情報・国際関係省（DIIR）を代表し、ウクライナの人々と政府と、偽りのない、心からの連帯を表明したいと思います。ロシアによるウクライナへの軍事侵略は、ウクライナの統治権への違反行為だけではなく、国際法、外交、良識に反するものです。国際社会は、可能な限り最も強い態度でこの侵略を非難すべきであり、ロシアがウクライナの人々へのさらなる苦痛と悲痛をもたらすのを阻止する努力をすべきです。

チベット人にとって、この侵略は1950年代の中国によるチベットへの残虐な軍事的占領を思い出させます。民主主義と平和共存の時代に、このような侵略が行われているのは、さらに衝撃的で痛ましいことです。それゆえ、チベット人はウクライナと共に団結して立ち上がり、この苦しみの速やかな収束のために祈りを捧げます。ウクライナはまた、一部の揺るぎないチベット支援者と、チベット仏教徒たちの故郷でもあります。ウクライナのチベット支援者の皆さんは、私たちの悲嘆と苦闘の時代に、私たちと共に立ち上がってくださいました。私たちは、侵略と攻撃に苦闘しているあなた方と、今こそ共に立ち上がるべき時なのです。あなた方の政府の優れたリーダーシップのもと、ウクライナに再び自由と幸せが満ちる日はそう遠くないことを、私は確信しています。



情報・国際関係省（DIIR）
ノルジン・ドルマ大臣は、
ウクライナとの心からの連帯を表明した

（翻訳：yasuakisuzuki）

アリヤ代表、衆議院第二議員会館にて勉強会と記者会見 「昨日のチベット、今日のウクライナ、そして明日は!」を開催

[2022年5月26日 スタッフレポーター]

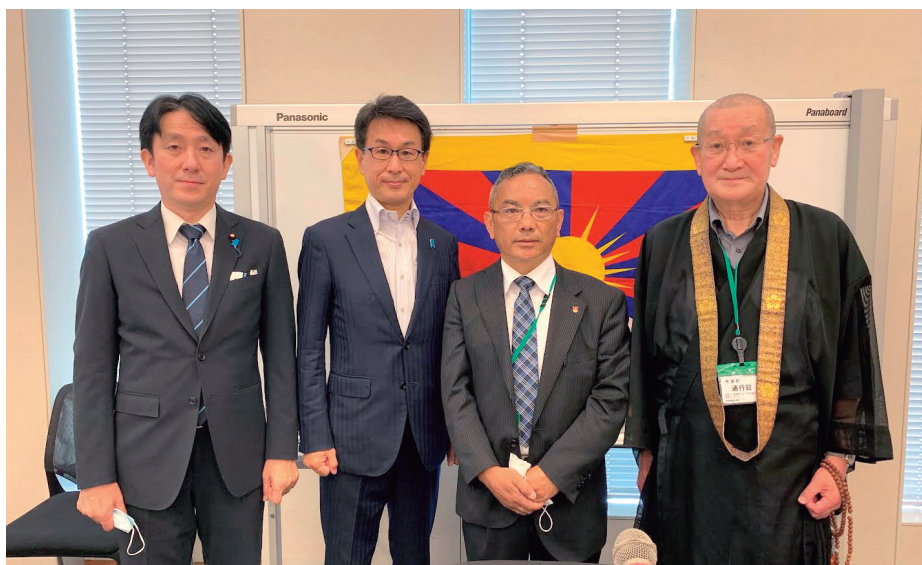


(左から) 石川昭政氏、石濱裕美子教授、アリヤ・ツェワン・ギャルポ代表と小林秀英師

東京：2022年5月17日に、パンチェン・ラマ11世ゲンドゥン・チューキ・ニマの強制失踪から27年目を迎え、ダライ・ラマ法王日本・東アジア代表事務所は、日本の国会議事堂前の衆議院第二議員会館にて勉強会と記者会見を開催した。衆議院議員で日本チベット議員連盟事務局長の石川昭政氏、早稲田大学・教育総合科学学術院の石濱裕美子教授、スーパーサンガ（宗派を超えてチベットの平和を祈念し行動する僧侶・在家の会）の小林秀英副代表らがパネリストとして参加した。

司会の石川昭政氏は参加者を歓迎し、約27年前に中国共産党指導部が幼い転生僧とその家族を誘拐した、パンチェン・ラマ問題の経緯について簡単に紹介した。

代表のアリヤ・ツェワン・ギャルポ博士は、「昨日のチベット、今日のウクライナ、そして明日は!」と題した講演を行った。70年前、チベットの悲劇を世界は無視し、それによっていかに中国や他の全体主義政権の領土侵犯を助長したのかについて語った。そして、チベットとウクライナの問題との類似性を指摘した。中国のチベット、ウイグル、南モンゴルへの侵略とロシアのウクライナへの侵略に対して国際社会が沈黙し続けることは、さらなる犠牲と侵略を生むことになる、と警告した。



石川昭政氏、長尾敬氏、アリヤ・ツェワン・ギャルポ代表、小林秀英師



アリヤ・ツェワン・ギャルポ代表、石濱裕美子教授、小林秀英師と、
参加者の在日チベット人ら

またアリヤ代表は、パンチェン・ラマとその家族の即時解放を要求するプレスリリースを発表した。また、チベット人の宗教の自由を認め、ダライ・ラマ法王を含む転生仏の選定への干渉をやめるよう、中国の指導者に要求した。さらに、ロシアによるウクライナ侵攻の即時停止と和平交渉の開始を要求した。

早稲田大学・教育総合科学学術院の石濱裕美子教授は、チベット仏教における輪廻転生制度について説明し、チベット人が転生僧をいかに深く尊敬しているかを語った。「チベット人は中国共産党の指導者が任命した転生僧を決して認めな

いし、尊敬することはないでしょう」と、中国がこの輪廻転生問題に干渉すべきでないと述べた。また、チベットの宗教文化は、平和と調和を促進する大いなる可能性を秘めていると述べた。

スーパーサンガ副代表の小林秀英師は、中国共産党政権がチベットに残忍な侵略を行い、弾圧を続けていることを非難した。焼身抗議自殺や、チベット人のアイデンティティと生活様式を中国化しようとする政策に対する抵抗が続いていることについて語った。

日本チベット議員連盟の前事務局長である長尾敬氏も参加し、チベット問題への支援について語り、「チベットは今、閉ざされた国となっている」と述べた。今回の「昨日のチベット、今日のウクライナ、そして明日は！」という議題に、深いメッセージを感じていると述べた。

チベット情勢、焼身抗議自殺、宗教的迫害などに関する質問に、各講師が対応した。その後、配布された4冊の書籍『連れ去られたチベットの少年』『チベット侵略～中国共産党100の残虐行為』『チベット問題解決の中道政策とその他の関連資料』『チベットとダライ・ラマ法王』について、アリヤ代表から説明した。



書籍『チベット侵略～中国共産党100の残虐行為』を紹介するアリヤ・ツェワン・ギャルポ代表

勉強会と記者会見には、日本の国会議員やそのスタッフ、メディア関係者、チベット支援者、在日チベット人など約30人が参加した。（翻訳：S.Suzuki）

アリヤ代表、「六・四天安門事件33周年抗議集会」に登壇

[2022年6月5日 スタッフレポート]



講演するアリヤ・ツェワン・ギャルポ代表と、チベット旗を掲げる小林秀英師。
(写真：森本)

東京：6月4日、「六・四天安門事件33周年抗議集会」が開催され、中国大使館前のデモ行進と抗議活動、文京区民センターでの抗議集会と記念講演、JR新宿駅前でのキャンドルナイトなどが行われた。ダライ・ラマ法王日本・東アジア代表事務所・代表のアリヤ・ツェワン・ギャルポ博士は、主催者の「天安門事件33周年抗議集会実行委員会」の招きで、講演会に登壇した。

講演会には、実行委員長で民主中国陣線・日本代表の王載氏、米国在住の中国人作家の陳破空氏、南モンゴルクリルタイ幹事長のオルホノド・ダイチンド氏、Stand with HK@JPNのウィリアム・リー氏らが登壇し、天安門学生指導者で米国の「人道中国 (Humanitarian China)」代表の人権活動家・周鋒鎖氏もオンラインで参加した。司会は、実行委員で「アジア民主化運動」代表の小島孝之氏が務めた。

抗議集会では、天安門事件と中国軍の残虐性を記録したビデオが上映された。また、2010年ノーベル平和賞受賞者の劉曉波氏の天安門事件に関する詩を、委員会メンバーが中国語と日本語で朗読した。講演では、中国共産党指導部がいかに

残忍に中国の若者の声を絞め殺し、平然とデモ参加者の命を奪ったかが語られ、中国の指導者に対し、現実を直視し、国際社会の一員として民主主義と法の支配を受け入れるよう促した。



挨拶するアリヤ・ツェワン・ギャルボ代表と小林秀英師。(写真：森本)



記者会見に出席した主催者と登壇者。(写真：T. Sato)

アリヤ代表は、この集会へ招待され、チベット人の天安門事件についての見解を発表する場を与えられたことに感謝した。彼は、中国の兄弟姉妹が、自由と民主主義のために戦い続けていることに対して、チベット人の連帯の意を表明した。33年前、中国共産党指導部は民主主義と中国の若者の声を抑圧しようとしたが、

彼らの声は何百万人もの中国人の心の中だけでなく、国際社会の無数の人々の心の中でまだ生き続け、響き渡っていると述べた。



実行委員長で民主中国陣線・日本代表の王載氏の挨拶。(写真：T. Sato)

アリヤ代表は、中国の残虐行為、人権侵害、信教の自由の抑圧、そしてなぜチベット人が焼身抗議自殺を行うのかについて話した。また、チベット人が分離主義者で反中国的であるという中国共産党指導部の主張に対して反論した。ラルンガル僧院やヤルチェンガル僧院の破壊、チベット人と中国人仏教徒の強制分離、中央チベット政権が中国共産党に提出した『チベットの真の自治に関する覚書』が中国国民へ開示されないことなどが、真の分離主義者はチベット人ではなく、中国共産党指導部であることを示していると述べた。

会場は、日本人、中国人、南モンゴル人、香港人の知識人や支援者で満席となった。スーパーサンガ（宗派を超えてチベットの平和を祈念し行動する僧侶・在家の会）の副代表・林秀穎師と小林秀英師も参加した。

記念講演の最後には、母国で民主化を要求し闘争する中国人たちに対する支持と連帯を表明する決議が行われた。この決議は、中国指導部に対して、自国民に対する弾圧や残虐行為をやめるように求めるものである。

その後、記者会見が行われ、主催者と講演者がメディアとの質疑に応じた。会場の入口には、デモの弾圧と残虐行為を記録した写真が展示された。

(翻訳：S.Suzuki)

米国務省、チベットのパンチェン・ラマ11世の 「即時釈放」を中国に要請

[2022年4月26日 インド、ダラムサラ・スタッフレポーター]



アメリカ合衆国・国務省報道官のネッド・プライス氏

4月25日（月）、チベットのパンチェン・ラマ11世ゲンドゥン・チュウキ・ニマの33歳の誕生日にあたり、米国国務省は中国に対し、彼の所在と安否の確認を求めるプレスリリースを発表した。チベットのパンチェン・ラマ11世は、1995年5月17日、当時6歳で最後に目撃されて以降行方不明のままである。

チベット人とその友人たちがパンチェン・ラマ11世の33歳の誕生日を祝う中、中国政府は彼の強制失踪の真相をあからさまに隠し続け、さらにパンチェン・ラマ11世とその家族の居場所に関するあらゆる情報へのアクセスを拒否している。

「今日はパンチェン・ラマ11世ゲンドゥン・チュウキ・ニマの33歳の誕生日です。パンチェン・ラマは、ダライ・ラマに認定された転生者で、チベット仏教において2番目に尊敬されている人物ですが、中国政府は、チベット人コミュニティのメンバーが彼の情報にアクセスすることを拒否し続け、代わりに、中国政府が認定した代理人を宣伝し続けています。」と国務省報道官のネッド・プライス氏は述べている。

国務省報道官は、中国に対し、パンチェン・ラマの強制失踪についての責任を追及しつつ、国際公約に従ってゲンドゥン・チュウキ・ニマが基本的人権と自由を完全に行使する権利を認めるようにも主張した。

「米国は、チベット人の宗教の自由と、独自の宗教、文化、言語のアイデン

ティティを支持します。その中には、チベット人が政府の干渉を受けずに自らの信念に従って、ダライ・ラマやパンチェン・ラマのような指導者を選び、教育し、崇拝する権利も含まれています。」と声明は締めくくっている。

(翻訳：S.Suzuki)

チベットの首都ラサで焼身抗議が報じられたツェワン・ノルブ氏が死去。 中国当局による極めて厳しい抑圧的状况下での焼身抗議

[2022年3月12日（最終更新日：2022年3月17日） スタッフレポーター]

2022年2月下旬に焼身抗議を図ったことが報じられた、チベット人人気歌手のツェワン・ノルブ氏（25歳）が死亡したことを信頼できる情報筋が確認した。

亡命チベット社会のメディアの報道によるとツェワン・ノルブ氏は、2022年2月25日、チベットの首都ラサにあるポタラ宮前で焼身抗議を図った。ラサは、世界で最も厳しく監視されている都市の1つであり、中国の警察隊が大量に配備されている。焼身抗議後、中国警察隊はすぐさま現場にかけつけ、彼を連行した。チベットでの情報流通は中国当局によって厳しい調査・監視されているため、彼の焼身抗議の詳細について突き止めることは困難な状況となっている。焼身抗議を図った後の彼の死因も、現時点でも不明のままである。

ツェワン・ノルブ氏の家族は、2022年3月2日、中国警察から彼が死亡したことを知らされた。しかしながら、中国当局は、彼の遺体を家族のもとに返還していない。

チベットでは、焼身抗議を含む中国政府に対する抗議活動が行われると、中国政府は直ちに規制を強化し、ほぼ完全に通信を検閲して抑圧を行う。そのため、このような抗議活動の詳細が何年間も不明のままとなるケースもある。

2015年、チベット東部ナクチュ県デイル郡での抗議行動の後に死亡したチベット人・シュルモ氏（当時26歳）が焼身抗議を図った件に関しては、昨年、5年以上経過してようやく明らかとなった。

ツェワン・ノルブ氏は、国内外のチベット人コミュニティで人気を博していた新進気鋭のスターだった。ジャンルを超えた才能あるアーティストだった彼は、「ザ・ヴォイス」や「アイドル」と同様の、中国におけるリアリティ番組の歌唱コンテストに出演していた。「ドレス」「ツェンパ」「君の他には」などのヒット

曲がある。彼は、数々の受賞歴のある人気女性歌手で、後に中国政府の「歌舞団」にも採用された ソナム・ワンモ氏の息子でもある。



ツェワン・ノルブ氏

これまで最後の焼身抗議として知られていたのは、2019年11月26日、チベット東部アバで、中国によるチベットの支配とチベット人に対する強硬路線の政策に反対したヨンテン氏による焼身抗議だった。

2022年3月2日、中国当局は、歌手ツェワン・ノルブ氏の家族に連絡し、彼が死亡したことを知らせた。しかしながら、彼の遺体は家族に引き渡されていない。

——国連、EU、人権デスク、チベット擁護セクション及び中央チベット政権情報・国際関係省（DIIR）による報告

（翻訳：仁恕）



焼身抗議を図ったチベット人たち（写真：チベット・ミュージアム）

チベット人作家のロブサン・ルンドウツプ氏（ペンネーム：ディー・ラデン）、ミュージシャンのルンドウツプ・ドラクパ氏、教師のリンチェン・キイ氏の逮捕、拘禁及び強制失踪について国連専門家が中国に説明責任を要求

[2022年4月20日 スイス、ジュネーブ・スタッフレポーター]



（写真左から）歌手のルンドウツプ・ドラクパ氏、作家のディー・ラデン氏、教師のリンチェン・キイ氏

国連人権理事会の特別手続き任務の専門家グループの6名が、昨年2月に中国に送付された公式共同声明文で、ディー・ラデンのペンネームで知られるチベット人作家ロブサン・ルンドウツプ氏、ミュージシャンのルンドウツプ・ドラクパ氏、教師のリンチェン・キイ氏の逮捕、拘留、そして強制失踪に対して懸念を表明し、中国側に説明責任を求めていることが公表された。

国連の人権専門家らは、チベットでの中国による著しい人権侵害の具体的な3つの事例を指摘した上で、教育を含むチベット文化の促進という正当な取組みに関与した多くのチベット人に対する中国の抑圧的な措置と、チベットにおける中国の支配に批判的なチベット人に対する中国の圧力に対して「深刻な懸念」を表明した。

専門家らは共同声明文で、いずれもチベット人で作家のロブサン・ルンドゥップ氏、歌手のルンドゥップ・ドラクパ氏及び教師のリンチェン・キイ氏らの生死の別、健康状態そしてその所在について情報を開示するよう、強い論調で中国に求めた。ロブサン・ルンドゥップ氏とルンドゥップ・ドラクパ氏の「逮捕、拘禁そして有罪判決」に関する法的根拠を強調しながら、「彼らに対する措置」と国際人権規範及び基準との適合性について、中国に対して疑問を呈した。チベット人教師のリンチェン・キイ氏の件に関しては、中国に対して彼女を逮捕及び拘禁した法的根拠や、「分離主義を扇動した」容疑に関して国際的な人権規範や慣習に照らしてどのように「解釈」され、「適合」していると判断されたのかについて説明を要求した。

ディー・ラデンのペンネームで知られるチベット人作家のロブサン・ルンドゥップ氏は、中国四川省成都の私立文化教育センターで勤務していた2019年6月、中国当局により逮捕された。彼は、1年半の間、裁判を受けることもできずに拘束され、家族との面会も禁じられた。

2021年、中国の裁判所は、ロブサン・ルンドゥップ氏を、家族の立会もないまま、非公開の裁判により「社会秩序を乱した」容疑で「懲役4年の刑」に処した。国連の専門家らは、チベット人作家ロブサン・ルンドゥップ氏の逮捕とその判決は、チベットでの中国の支配に批判的な彼の著作や、彼がチベットの歴史教育に関与していることよるとした調査報告を中国に発信している。

ロブサン・ルンドゥップ氏は、チベット東部アムド地域ゴロク、ペマ（班瑪）県ティダ村の出身である。彼は、チベット国内で、チベット語、歴史、仏教の教鞭をとっていた。また、彼はディー・ラデンのペンネームで、「Tsesok Le Trun Pe Kecha（命がけの言葉、2011年）とTungol Trimtug（非暴力による抵抗戦略、2015年）」の2冊の著書を出版した。

チベット人ミュージシャンのルンドゥップ・ドラクパ氏は、チベットの主張に焦点を当てた楽曲とその音楽的才能をよく知られているが、2019年5月、チベット自治区のナクチュ市ディル郡で、チベットにおける中国の抑圧的な政策に批判的な歌詞を含んだ楽曲「Black Hat ～黒い帽子」を発表した後、中国当局によって逮捕された。

長期間にわたり外部との連絡を絶たれて拘禁された後、ルンドゥップ・ドラクパ氏は、当然のことながら、彼の歌「Black Hat ～黒い帽子」に関連して2020年6月に懲役6年の刑を宣告された。

リンチェン・キイ氏は、2021年7月、チベット東部アムド・青海省ゴロク地域・タルラク（達日）県にあるセンドルク・タクツェ中学校の強制閉鎖に反対し、

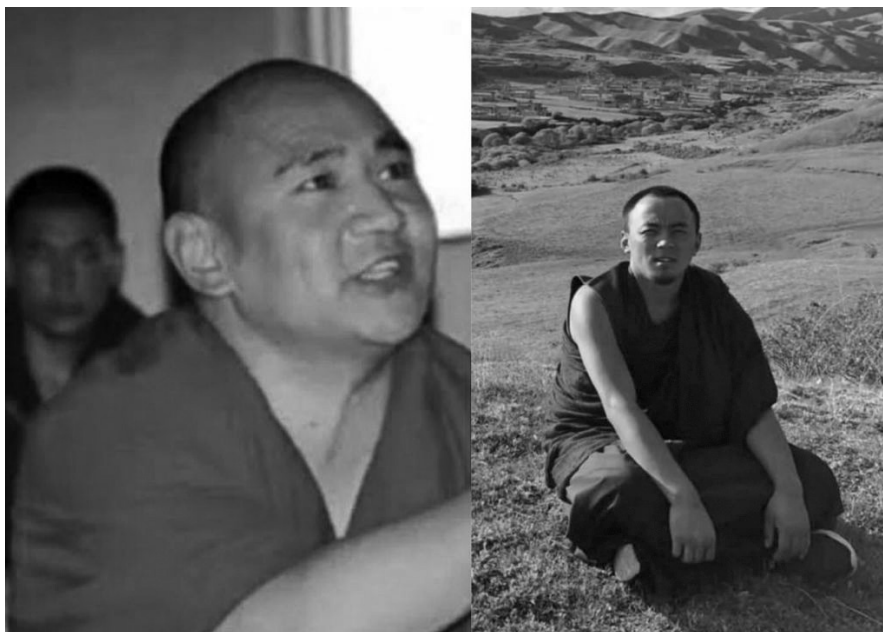
ハンガーストライキを行った後、「分離主義扇動」の罪で2021年8月に逮捕された。その後彼女は中国当局に連行され、青海省の省都・西寧に所在する病院に入院していると報じられたが、病状の診断結果についてはわかっていない。このことを知った彼女の家族が病院に駆けつけたが、既に別の場所に移送されていた。以後、彼女の健康状態や所在は不明のままである。

国連専門家が共同声明において強調したように、中国に対し釈明を求めたこれらの事案は、チベット人、特にチベットの言語、文化及び伝統の保護に従事するチベット人、若しくは、チベット国内における中国の政策について批判的な見解を表明しているチベット人が日常的に直面する問題の代表的なケースである。

国連の特別手続き任務保持者は、「文化的権利における特別報告者」「恣意的抑留に関する作業部会」「強制的または非自発的失踪に関する作業部会」「意見と表現の自由に対する権利と保護に関する特別報告者」「少数民族問題に関する特別報告者」の6つのグループまたは個人で構成されている。

——中央チベット政権ジュネーブ支局による報告

(翻訳：仁恕)



中国政府に拘束されている著名なチベット仏教学者のゴ・シェラブ・ギャツォ氏と
リンチェン・ツルトリム氏

パンチェン・ラマと家族の釈放を求める新たな呼びかけ

[2022年4月25日 スタッフレポート]



幼少期のパンチェン・ラマ11世ゲンドウン・チューキ・ニマ

チベットのパンチェン・ラマ11世ゲンドウン・チューキ・ニマの33回目の誕生日にあたり、中国が我々チベットの歴史から彼を消し去ろうとしている中で、「世界は決して彼のことを忘れてはいない」ことを強く訴えていくキャンペーンをこの機に再開します。私たちは中国政府に対し、中国が遵守すべき国際法や条約のもと、パンチェン・ラマ11世と彼の家族の自由で安全な生活を保障するよう要請します。

1995年5月14日、ダライ・ラマ法王はゲンドウン・チューキ・ニマ少年をパンチェン・ラマ師の11番目の転生者（転生霊童）として認定しました。これを受け、中国政府は、パンチェン・ラマ搜索委員会の委員長であるチャデル・リンポチュエ（タシルンポ僧院の僧院長）を逮捕しました。1995年5月17日、ゲンドウン・チューキ・ニマは家族全員とともに中国に拉致され、6歳のニマ少年は世界最年少の政治犯となりました。中国政府は、ダライ・ラマ法王の意向を無視し、中国

政府独自の不正な候補者を選定することにしました。1995年11月11日、中国政府は共産党員の息子であるギェンツェン・ノルブ氏をパンチェン・ラマ11世として発表しました。1995年12月、タシルンポ僧院にて、500人以上の軍人が僧院の敷地内に配置された厳しい警備の中、彼の即位式が執り行われました。

1995年11月、国連人権委員会「強制的・非自発的失踪に関する作業部会」は、パンチェン・ラマ11世の所在について懸念を表明し、中国政府に対し、この件に関する情報提出を求めました。その後、国連「拷問禁止委員会」「子どもの権利委員会」「宗教・信仰の自由に関する特別報告者」を含む多くの人権機関が、中国政府に対してパンチェン・ラマの所在を明らかにするよう要請してきました。今日に至るまで、中国はこれらの要請に耳を貸さず、「パンチェン・ラマは一般市民で、全く普通の生活をしており、それをかき乱されることを望んでいない」と嘯き、世界を欺き続けています。こうして、パンチェン・ラマ11世の件は、世界で最も長い強制失踪事件の一つとなっているのです。

なぜ、中国がパンチェン・ラマの選定に干渉し、ニマ少年を拉致したのかといえば、中国がチベットを支配しているのだということを誇示し、将来ダライ・ラマ法王が選定される際に中国政府の意向を通すための基盤を作ろうとしているからです。チベットにおいて文化的、宗教的に重要な役割を担っているパンチェン・ラマが、政治的干渉を受けずに精神性の高い教育を受けることは必須なのです。

我々はまた、ミシェル・バチエレ国連人権高等弁務官に対し、今年5月、新疆を訪問される際、同時にチベットへも訪問頂き、チベット内部の実際の人権状況を調査し、特にパンチェン・ラマ11世と家族の現状と所在に関する情報を中国に提出させるように働きかけて頂けるように、以前からお願い申し上げておりますが、再要請いたします。

パンチェン・ラマ11世と家族の人権と安全が保障されているということが具体的な証拠が中国政府により提示される日まで、中国政府には既存の国際法を遵守するよう、また、パンチェン・ラマ11世と彼の家族が解放され、自由で平和な生活を送れるよう、我々は各国政府、議会、NGO、国連の人権機関・機構に対して、引き続き中国に強く働きかけていく協力を要請します。

——中央チベット政権 情報・国際関係省（ダラムサラ）による発表

（翻訳：石田一規）

「私たちの未来のための対話」参加者との会見

[2022年4月22日 インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ]

本日、2022年のアースデイ（地球の日）に際して、ダライ・ラマ法王は様々な団体から招集された「私たちの未来のための対話」の参加者と会見された。部屋に入ると、法王は笑顔で「おはようございます」と挨拶された。



気候変動の緊急性を訴えるためにラダックのカルドゥン・ラ（峠）の氷河から採取された氷の塊を示しながら、ダライ・ラマ法王に説明する気候緩和イノベーターのソナム・ワンチュク氏。2022年4月22日、インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ（撮影：テンジン・チュンジョル／法王庁）

まず、気候緩和のイノベーターであるソナム・ワンチュク氏が法王にラダックのカルドゥン峠の氷河から採取された氷の塊を提示して、チベット高原における気候変動の緊急性を浮き彫りにするものだと説明した。この氷の塊は、山に住む若者たちが「私たちが山でシンプルに暮らせるように、どうか皆さんもシンプルに暮らしてください」というメッセージを伝えるために自転車、公共交通機関、電気自動車を乗り継いで運んできたものだと語った。

それに応じて、ダライ・ラマ法王は次のように話された。

「益々多くの人々が環境問題に関心を寄せてくれていることに感謝しています。

究極的に言えば、水は私たちの生命の源です。今後数年間にわたって、私たちは多くの人々の水源である大河を保全するための措置を講じる責任があります。私自身、これまで生きてきた中でチベットの降雪量が減り、その結果として川の水量が減少しているのを目の当たりにしてきました」

「かつて、私たちは水がどこから来るのかをあまり考えず、無制限に使えて思っていました。しかし、今、私たちは水源を守ることにもっと注意を払う必要があります。私は塩水や海水を真水に変える技術を活用すれば、世界各地の砂漠を緑化し、食料生産を増やすことができると信じています」

「今、私たちには未来の世代の人々がきれいな水を享受し続けられる状況をつくる責任があります。このことは未来の世代の人々に対する思いやりの表現でもあるのです。私たちが今努力しなければ、この世界が砂漠化する恐れがあります。そうなれば、この美しい青い地球は、水の無いただの乾燥した白い岩になってしまうかもしれません」

「水がなければ人は生きていけない」と私はよく考えますが、インドの友人たちの中には、多くの木を植えることが解決策のひとつだと言う人もいます。その通りだと思います。そう言う友人の一人であるスندانラール・バフグナ氏と約束したのですが、私は人々に対し、より多くの木を植えて手入れをするように、あらゆる機会を用いてできる限りの働きかけをし、彼の願いを叶えたいと思っています」

チェコ共和国の元環境大臣であるマルチン・ブルシーク氏は、法王に触発されて環境保護活動家が一堂に会する機会をもつことができたとして法王に謝辞を述べた。そして、今回の対話の焦点となる4つのトピックを紹介した。

1. 気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の最新報告書に記載されている地球の状態。
2. 気候危機を相殺するための風力発電、太陽光発電などのテクノロジーの役割。
3. チベットは環境保護主義者の間では第三の極である言われているが、氷河が後退しているばかりか、永久凍土が溶けてメタンが放出されている。
4. エネルギー民主主義。一般の人々がより直接的に関与できるように、エネルギー・モデルをどう変えられるか。

ブルシーク氏は「私たちの未来のための対話」の成果として、チベット高原を



ダライ・ラマ法王に「私たちの未来のための対話」の概要を説明するチェコ共和国の元環境大臣マルチン・ブルシーク氏。2022年4月22日、インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ（撮影：テンジン・チュンジョル／法王庁）

守り、気候変動を止めるために講じるべき方策を盛り込んだ声明文が作成され、COP27の開催時にエジプトで発表される予定であると法王に伝えた。

それを受けて、法王は次のように語られた。

「以前は、気候は自然の一部にすぎないと考え、その恩恵を当然のこととして受けてきました。しかし、現在起きている気候変動の多くは私たちの行動と密接に関係していることは明らかで、気候変動に影響を及ぼす要因について人々を啓蒙する必要があります。私たちは、環境を保全する方法にもっと注意を払うべきです。つまり、気候変動とそれが環境に及ぼす影響について基本的理解を深めるための教育を、通常の教育の一環として実施する必要があります」

ここで、ケニアの気候変動活動家エリザベス・ワトゥティ氏が、世界の指導者たちに愛と思いやりのある行動をとるよう訴えるにはどうしたらよいかと法王に尋ねると、法王は、他者を大切にすることが本質的に自分自身を大切にすることになると伝えればよいと答えられ、地域社会の健全性と幸福が個人の健康と幸福の源であることを指摘された。そして、8世紀に現れたインド人の導師シャーンティデーヴァ（寂天）の偈をいくつか引用された。

- 自分の幸せと他者の苦しみを完全に入れ替えなければ、仏陀となることは

できないし、輪廻においても幸せを得ることはない。（『入菩薩行論』第8章131偈）

- この世のいかなる幸せも、他者の幸せを願うことから生じる。この世のいかなる苦しみも、〔自分だけを大切に〕自分の幸せを求めることから生じる。（第8章129偈）
- 多くを語る必要がどこにあらう。凡夫は自利を求めて〔望まぬものをすべて得て、〕成就者〔仏陀〕は利他をなして〔すべてのすばらしきものを得る。〕この二者の違いを見よ。（第8章130偈）



「私たちの未来のための対話」の参加者に向けて話をされるダライ・ラマ法王。2022年4月22日、インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ（撮影：テンジン・チュンジョル／法王庁）

法王は次のように述べられた。

「私はどこに行っても、出会う人々は皆、ひとりの人間であるということにおいて私と同じだと思って微笑みます。“私たち”、“彼ら”というように他者を区別し、違いばかりを気にしていると、不信と孤立を招きます。それよりも、70億の人間が根本的には同じであって、共に生きていくべき存在なのだと考えるほうがずっと有益です」

ここで、SF作家を自称するキム・スタンリー・ロビンソン氏から「仏教は科学にどのように役立つか」という質問があがり、これに対して法王は、「科学者



「私たちの未来のための対話」で参加者からの質問に答えられるダライ・ラマ法王。2022年4月22日、インド、ヒマーチャル・プラデーシュ州ダラムサラ（撮影：テンジン・チュンジョル／法王庁）

のみなさんは、心がかき乱された状態では人は幸せにはなれないことを認識した上で、心の平和を得る方法を議論することに関心を抱いておられる」と述べられ、精神的な意識作用についてもっと知り、論拠に基づいてそれを訓練し、学ぶことの利点を強調された。

カナダのチベット人女性実業家であるツェリン・ヤンキー氏は、気候変動という世界的な課題に対して、ビジネスや経済が解決の一端を担うためにはどうしたら良いかを尋ねた。法王は、「テクノロジーは物理的な快適さを向上させるひとつの要因ですが、私たちにできる最も重要な変革は、心を鍛えることです」と答えられた。

エネルギー・システムのイノベーターであるアラシュ・アーザミ氏は、「エネルギーは豊富にあるのに、私たちはそれをめぐって争っている」と述べ、自然、人間、経済のニーズ間でバランスを取る方法について尋ねた。

法王は次のように答えられた。

「物質的な発展は必要であり、役に立つものですが、それには限界があります。一方、私たちのニーズを満たすには、善きところを養うことがより効果的です。釈尊は6年間断食して人のために尽くそうとされました。チベットの聖者ミラレパや、近代ではマハトマ・ガンジーが非常に質素な環境で暮らしながら、深いレベルの精神的充足を達成されました」

「私たちが自然を過剰に活用してきたことが負の結果をもたらしました。私たちはより広範で長期的な視野に立ち、心の平和を育むことを主眼として取り組む

必要があります」

ニューデリーに拠点を置くエネルギー資源研究所（TERI：Energy and Resources Institute）のヴィバ・ダワン所長は、「倫理、思いやりの心、そして物欲に囚われない生き方を通して、健全で安全な自然環境を取り戻すにはどうしたらよいか」と質問し、それに対して法王は次のように話された。

「私たちは同じひとりの人間として兄弟姉妹であり、互いに相手を尊重しながら共存すべきです。そして、皆が平和裏に共存するためには、厳しい管理下ではなく、自由に生き、他者の考え方に対する寛容さを培うことができれば、より効果的でしょう」

今日の進行役であり、国際弁護士として国際外交や紛争解決の分野で豊富な経験を持つクリスタ・メンデスルマ氏は、今日、法王にお会いできたことは参加者全員の大きな喜びであると述べ、これから対話を開始し行動を呼びかけると語った。

「私たちの唯一の家である地球存続の運命を握るのは私たち自身です」と宣言し、「できれば、来年のアースデイにも、またこのような対話の場を持てることを願っています」と結んだ。

法王は、「今後10年、15年くらいかけて、折に触れてこのような機会を持ち、皆さんにお会いできるでしょう」と答えられた。

<http://www.dalailamajapanese.com/>

ダライ・ラマ法王のメッセージ：2022年のアースデイに寄せて

[2022年4月22日 インド、ダラムサラ・ダライ・ラマ法王庁]

2022年のアースデイ（地球の日）に念頭に置くべきことは、だれもが幸せに暮らしたいということです。これは人間にかぎらず、動物も鳥も昆虫も同じです。私たち全員が、人間は互いに集まって生きているということをよく考えなくては いけません。私たちは人間として、良いことをする絶好の機会を与えてくれる素晴らしい脳をもっていますが、現在の世界情勢を見るかぎり、それを活かしているとは思えません。私たちには、他の人々の幸福を真剣に考えられるような内面的価値を組み入れた、よりホリスティックな教育が必要です。

私たちの住む世界は、深い相互依存の関係にあります。私たち全員に影響を及ぼす気候変動のような新たな課題は、私たちがグローバル経済に参加するのと同



様に、人類全体を考慮に入れなければならないことを意味しています。最優先すべきは、地球への利益を考えることなのです。

化石燃料への依存を減らし、風や太陽の力に依存した再生可能なエネルギー源を採用する緊急措置が必要です。森林伐採には注意を払い、より一層環境を保護していかなければなりません。より多くの木々を植えて、育てる必要があります。私も自分の人生において、最初はチベットで、そして後にはダラムサラで、降雪量の低下を目の当たりにしました。実際、チベットなどの地域が最終的に砂漠化してしまう危険があることを私に話してくれた科学者たちもいます。それゆえに私は、チベットの壊れやすい環境を保護するよう全力で呼び掛けているのです。

私たちの人生の土台は希望に基づいており、物事が良い結果を生むようにと望む気持ちにあります。希望は、未来と関わり合っています。未来を保証するものが何もないとしても、希望を持ち続けているほうが、悲観的であるよりずっとよいでしょう。地球温暖化が激しさを増している最中にも、とりわけ多くの若者たちが力を合わせて解決策を探し、分かち合っています。彼らは私たちの希望です。今や、気候危機の結果として深刻な問題に直面しているのですから、私たちは変革のためのスケジュールを組んで、互いに助け合わなくてはなりません。人間として、この地球に住む者として、私たちは共に幸福に生きる努力をしなければなりません。気候変動の脅威は、国境で区切ることのできない、私たち全員に影響を及ぼす問題です。自然を保護し、私たちの唯一の家である地球を守らなくてはなりません。<http://www.dalailamajapanese.com/>

ダライ・ラマ法王生誕祝賀会延期のお知らせ



謹啓

若葉の鮮やかな季節、ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素よりダライ・ラマ法王、ならびにチベット亡命政権の活動に深いご理解と暖かいご支援を賜り、誠に有難うございます。

来たる2022年7月6日、ダライ・ラマ法王は満87歳のお誕生日をお迎えになられます。在日チベット人ならび、日頃よりチベットをご支援いただいている団体、個人の皆さまと共に、法王のご長寿を祈念し、7月9日（土）に祝賀会の開催を計画しておりました。

この2年間、新型コロナウイルスの蔓延により、私たちは法王の誕生祝賀会を開催できませんでした。現在は、これまでより各種規制が緩和されているとはいえ、まだ安全になったとは言い難い状況です。また、現在進行中のロシアによるウクライナ侵攻を考慮し、本年のお祝いは延期することと致しました。社会情勢を鑑み、開催が可能であると判断できた場合には、日程が決まり次第、あらためてご案内申し上げたく存じます。

皆様方には、何卒ご理解いただけますようお願い申し上げます。また、法王の誕生日には、すべての衆生に思いやりと優しさをもって接するように、との法王のメッセージに思いを馳せていただけますと幸いです。

ダライ・ラマ法王日本代表部事務所スタッフ一同、チベット・日本の友好促進、文化交流など、充実した活動を続けてまいりますので、今後とも一層のご理解とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様のご健康とますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

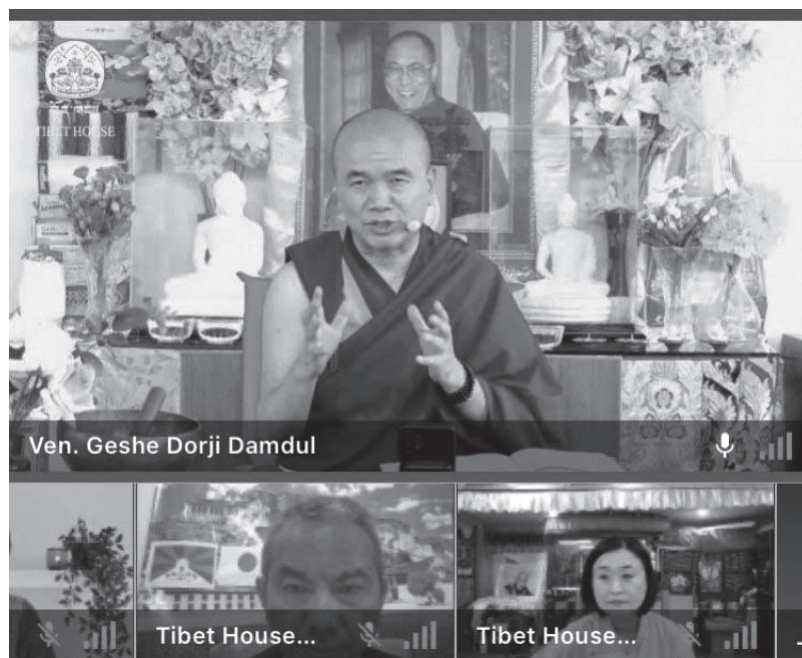
謹白

2022年6月吉日

ダライ・ラマ法王日本代表部事務所
代表 アリヤ・ツェワン・ギャルポ

ゴールデンウィークに 「チベットフェスティバル2022」を開催

[2022年5月9日 日本、東京・スタッフレポーター]



ゲシェ・ドルジ・ダムドル師の講義

チベットハウス・ジャパンは、5月1日から7日までの5日間、オンラインで「チベットフェスティバル2022」を開催しました。

ダライ・ラマ法王日本代表部事務所の代表・アリヤ・ツェワン・ギャルボ博士は、開会の挨拶で、このフェスティバルはチベットの豊かな宗教・文化遺産を紹介し、日本の政府と人々からのチベットへの揺るぎない支援に深い感謝を表すことが目的であると述べました。さらに、チベット人と日本人が互いの豊かな文化を共有することで、精神的・文化的な絆を深めたいと述べました。

初日5月1日は、代表のアリヤ博士による「チベットの歴史と文化」の講演で幕を開けました。講演では、「SEE (Social, Emotional, and Ethical) ラーニング」の重要性についても紹介しました。これは、より平和で思いやりのある世界を作るための基礎として、あらゆるレベルの教育で倫理を学ぶことの重要性を説いたものです。

続く5月3日から5日の3日間は、インド・ニューデリーのダライ・ラマ法王代表部事務所の文化部門であるチベット・ハウスの理事長、ゲシェ・ドルジ・ダムドル師による仏教入門が行われました。師の教えは以下3つのトピックに渡りました。

「初心者のための感情コントロール瞑想法」

「四聖諦」 ～ストレス・マネジメント～

「修行道の三要素（道の三要訣）」(lamtso namsum)

ゲシェ・ドルジ・ダムドル師の講義は、まず「三帰依／Kyabdro (Refuge prayer)」を唱え、それに続いて参加者も日本語で「三帰依」を唱えて開始しました。

参加者は皆、3日間のセッションに積極的に参加しました。質疑応答では、参加者から仏教の修行や日常生活に関する質問が出され、ゲシェ・ラは一つひとつ丁寧に回答しました。参加者からは、瞑想や呼吸法などが大変参考になったという声が聞かれ、今後もこのようなプログラムを開催してほしいという要望が寄せられました。



「チベットフェスティバル・ジャパン」で講演する
アリヤ・ツェワン・ギャルポ代表

5月7日の最終日には、昨年同様、チベットのバター茶、パク（麦焦がし）、テントウク（麺）作りの実演が行われました。また、チベット人と日本人のアーティストからオンラインで寄せられたチベット音楽の動画を配信しました。昨年同様、サンフランシスコ在住のツェリン・バワ氏、スイスのロテン・ナムリン氏、オーストラリアのテンジン・チョギャル氏、韓国のカラグ・ペンパ氏、東京の野田潤氏、長野のゲニェン・テンジン氏とテンジン・クンサン氏らがチベッ

トの伝統音楽、現代音楽を披露しました。

アリヤ博士は、フェスティバルを成功に導いた参加者とボランティア各位に感謝し、チベットハウス・ジャパンは今後も要望に応じて随時このようなイベントを開催していくことを約束しました。司会は、長谷川直子氏とソナム・ドルカル氏が務めました。

——チベットハウス・ジャパンによる報告

(翻訳：S.Suzuki)

チベット支援とご寄付について

平素より、皆様からチベット亡命政権、ならびにダライ・ラマ法王日本代表部事務所（NPO法人チベットハウス・ジャパン）の活動に深いご理解と温かいご支援をいただき、誠にありがとうございます。

皆様のご支援は、ダライ・ラマ法王の目指す世界平和と、慈悲のところに満ちた社会を実現するための大きな力となっております。

チベットは困難な状況が続いておりますが、私たちは平和と自由のための非暴力闘争を続けてまいります。

今後も、皆様の継続的なご支援とご指導をお願い申し上げます。

ご支援の方法については、HP（<https://www.tibethouse.jp/support/>）をご覧ください。

ご寄付に関しましては、下記の銀行口座にて受け付けております。

領収書を希望される方は、Eメール、お電話、お手紙などでご一報ください。

お振込先：

ゆうちょ銀行 郵便振替口座

口座記号番号：00100-1-89768

加入者名：チベットハウス

三菱UFJ銀行

支店名：新宿通支店（店番：050）

口座種別：普通

口座番号：2999213

口座名義：特定非営利活動法人 チベットハウス・ジャパン

当事務所の新しいスタッフの紹介です。 よろしくお願いします。



タシ・ヤンゾム：事務局長

北インド出身。2001年、ダルハウジーのチベット人学校を卒業後、ダラムサラのサラ高等チベット学大学に入学。2005年にデリー大学で学士号と芸術学士号を取得。
2006年、中央チベット政権の情報・国際関係省次官に抜擢され、3年間、公式ニュースマガジン「Sheja」と新聞「Tibetan Freedom」の記者として活躍。公式ウェブサイト「Tibetonline TV」のニュースプレゼンターも務めた。2008年から2015年まで、情報・国際関係省秘書兼大臣個人秘書として勤務。その後、同局のプロジェクトオフィサーに就任。2018年10月、公安省に異動し、共同秘書のポストに昇格し、同省の事務を統括。
2022年5月より、ダライ・ラマ法王日本代表部事務所の事務局長として着任。



ツェラ：経理担当

インド各地（スジャ、ゴパルプール、バイラクuppe）のTCVで学び、バンガロール大学を卒業し、コンピュータサイエンスで商学士号を取得。
中央チベット政権にてさまざまな職務を歴任。
2022年6月より、ダライ・ラマ法王日本代表部事務所の経理として着任。



長谷川・直子：秘書課・Office Assistant

皆さま、タシデレ！日本人スタッフの長谷川です。私は、大学生の頃にインドに行ったことがきっかけでチベットを知り、チベットに魅了されました。20年ほど前にはなりますが、チベットのアムド地方に1年ほど滞在した際には、強くて優しいチベットの方々に大変お世話になりました。事務の仕事にはまだまだ慣れず、皆さまにご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、皆さまとスタッフと共に、チベットの魅力を多くの方々に紹介していくことができればと思っております。よろしくお願いいたします。

チベットハウス主催『チベット語土曜講座』

Tibetan Language Course



チベットハウス主催

チベット語 土曜講座

2022年10月1日（土）～11月26日（土）・毎週土曜日（合計9回）

日常会話入門

読み書き基礎編

期 間：2022年10月1日（土）～11月26日（土）までの毎週土曜日【合計9回】

会 場：チベットハウス・ジャパン

：オンライン／BlueJeans (<https://bluejeans.com/>)

講 師：アリヤ・ツェワン・ギャルポ

補助講師：タシ・ヤンゾムとツェラ

-
- 日常会話入門 15：00～16：00
1回のみ受講 1,000円／9回通し 9,000円
 - 読み書き基礎 16：10～17：10
1回のみ受講 1,000円／9回通し 9,000円
 - 参考テキスト チベット語と日本語・英会話の本 1,000円（税込み郵送無料）
-

注意事項：（チベットハウス・ジャパン：定員20人／先着順。通し受講の希望者を優先させていただき、定員に達し次第、締め切ります。）※オンラインクラスに、定員はありません。

申し込み方法：ご予約は8月1日より、お電話とE-mailで受け付けます。

電 話：03-5988-3576 / Email：tibethouse.jp@tibet.net

チベットハウス会員制度／会員募集のご案内

会員特典

チベットハウスにご入会いただくと、さまざまな特典をご利用いただけます。

- 会員向け季刊誌「チベット通信」の無料定期配布（年4回予定）
- ダライ・ラマ法王来日情報等のご案内
- ダライ・ラマ法王来日講演のご優待
- 弊事務所主催の各種イベントの割引（1割から2割）
- 弊事務所チベット図書室の貸出サービス

会費について

入会費：3,000円／年会費：5,000円（※毎年4月に更新手続きをして頂きます。）

初年度合計：8,000円

ご入会方法：チベットハウス入会ご希望の方は、ゆうちょ銀行「郵便振替用紙」の通信欄に「チベットハウス入会希望」とご記入のうえ、お名前／フリガナ（フリガナは必須です）／ご住所／電話番号／メールアドレス を明記していただき、入会費及び年会費合計の8,000円をお振込ください。

お振込先

ゆうちょ銀行 郵便振替口座

口座記号番号：00100-1-89768

加入者名：チベットハウス

※尚、銀行振込でのご入会は扱っておりませんので、ご了承ください。

チベットハウス会員更新方法

チベットハウス更新ご希望の方は、郵便振替用紙の通信欄に「チベットハウス更新希望」とご記入のうえ、年会費の5,000円をお振込ください。

2年間、年会費のご入金が確認できない場合は、退会の扱いとさせていただきます。ご了承ください。

お問合せ 電話：03-5988-3576 FAX：03-3565-1360

Email：tibethouse.jp@tibet.net

ダライ・ラマ法王日本代表部事務所（チベットハウス・ジャパン）は
ダライ・ラマ法王及びチベット亡命政権の日本唯一の公的機関です。

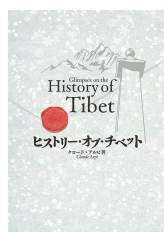
チベット関連書籍 Books on Tibet



新刊 ダライ・ラマ法王14世金言集 心の智慧

販売価格：1,000円

ダライ・ラマ法王の愛、慈悲、思いやり、平和のメッセージから代表的な113言を法王庁の快諾のもと、チベットハウス・ジャパンより金言集として刊行しました。より多くの方々が法王の言葉を通じて心の平和を見いだされることを願っております。



ヒストリー・オブ・チベット History of Tibet

クロード・アルピ著 (Claude Arpi) 販売価格：1,000円

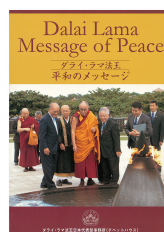
著者のクロード・アルピ氏によるチベット史の歴史をもとに作られた本書「Glimpses on the History of Tibet」は、絵や写真を通じて世界で最も高い場所の始祖神話から近代以降の苦闘までのチベットの多彩な文化、政治、宗教をまるで旅するかのよう体験できる本です。



希望 チベット亡命50年 Tibet Exile 50

販売価格：1,000円

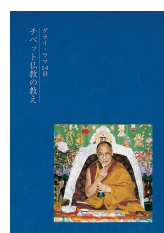
ダライ・ラマ法王台湾事務所によって発行された本の邦訳版。中国によるチベット占領、ダライ・ラマ法王の亡命、そしてインドでの中央チベット政権再建から、2009年で50年という月日が経過した。その50年間の記録を、オールカラー写真とわかりやすい解説を通じて紹介。



ダライ・ラマ 平和のメッセージ

販売価格：1,000円

ダライ・ラマ法王の世界平和や地球環境問題に関する思想や見解を掲載。「思いやりと個人」、ノーベル平和賞受賞のスピーチや講演、「普遍的責任と環境」等、ダライ・ラマ法王の非暴力の精神を理解するための鍵となる内容。



ダライ・ラマ14世 チベット仏教の教え

販売価格：1,000円

1995年のダライ・ラマ法王来日における法話集。仏教一般、特にチベット仏教の基本的な教理と実践の他、「人類の未来と人間の心」、「日本の人々へのメッセージ」を掲載。



チベット語と日本語 英会話の本

アリヤ・ツェワン・ギャルポ著 販売価格：1,000円

チベット語と日本語を学びたい人々にとって、非常に簡潔で使いやすい会話の手引書になっています。著者が自らの経験をもとにして、日常会話の中で頻繁に使う言葉や語句を中心に書いた本です。

お問合せ電話：03-5988-3576

Email: tibethouse.jp@tibet.net